

南野川小学校宿泊訓練 フォトレポート

5月26～27日に、川崎市立南野川小学校で避難所での宿泊を体験する、宿泊訓練が行われました。訓練の様子を当日の写真を中心にレポートします！

この宿泊訓練は、児童が直接校長先生に要望して実現しました。対象は6年生で、夕方学校に集まりスタートしました。受付で夕食を配付して、防災講座のあと、参加者全員で備蓄物資のアルファ化米を試食しました。夕食後はグループに分かれ

てHUGに取り組みました。就寝体験では床にダンボールを敷き、備蓄物資の毛布で眠りました。

避難所運営会議、PTA、学校職員の協力もあり、参加児童は最後まで真剣に取り組むことができ、とても良い訓練になりました。



ぼうさい講座



備蓄品の試食



避難所運営ゲーム (HUG)



体育館での就寝体験

Photo Report

●参加者の声

「体育館は音が響くので、夜トイレに行く人の足音や振動で起きてしまう」

「ダンボールだけでは固く、冷たさも伝わり、あまり眠れませんでした」

「防災講座で避難所や地域のつながりのことがよく分かって勉強になりました」

「HUGで避難所運営の大変さを知りました」

●HUGってなあに？

HUGとは「避難所運営ゲーム：H(hinanzyo避難所)、U(unei運営)、G(gameゲーム)」の略称で、参加者は運営委員として避難してきた人たちをうまく配置できるか、また、災害後に起こる様々なことにどのように対応するかを体験するゲームです。

宮前区役所危機管理担当より貸出しも行っていきます。興味のある方は下記まで

「防災ニュース」に関するお問合せは、宮前区役所危機管理担当(856-3114)まで
バックナンバーは、宮前区役所ホームページ⇒安全安心のまちづくり⇒「防災ニュースのページ」をご覧ください。



防災ニュース 2017.09 第33号

宮前区役所危機管理担当/宮前区まちづくり協議会防災部会

今見直したい、在宅避難という選択。



わが家の地震対策、備えていますか？

震災があった後、被害の大小に応じて避難をすることになると思います。家屋の倒壊や恐れ、その他壊滅的なライフラインの停止等があると避難所に行くことになると思いますが、日頃より備蓄や家の耐震化など防災準備が事前にしてあれば、在宅避難をお勧めします。水や食料は「最低3日間、できれば7日間生活できる」備えを各家庭で心掛けましょう。また折角備えた物資がムダにならないよう、地震に強い住環境づくりも整えましょう。

在宅避難のすすめ 家庭でできる備え

下の図は防災ニュース30号で紹介した被災時の避難の一般的な順序を示した図を簡略化したものです。この図の水色の矢印が発災時の最初の行動を示したもので、赤い矢印が自宅に戻る行動を示したものです。

区内の小・中学校に開設される避難所は、家の倒壊や焼失などによって自宅で生活できなくなり、中・長期的に避難が必要になった場合に一時的に

生活する場所です。

自宅での生活が継続できる状況であれば、在宅避難をしましょう。避難所では、環境の変化などによって体調を崩す人もいます。事前に住宅の耐震化や、家具の転倒防止などの対策を行い、食料や水など必要なものを日頃から備蓄し、可能な限り在宅避難できるように準備を整えておくことが大切です。



在宅避難には日頃の備えが重要です。

1

家具の配置・転倒防止



家が倒壊しなくても、家具などが転倒してしまうとガラスなどの破片で室内も危険です。日頃より家庭内の危険箇所をチェックし、家具の配置をし直したり、家具転倒防止器具などで予防対策を行っておきましょう。窓ガラスには網入りガラスを用いるか、飛散防止フィルムを貼りましょう。通電火災を防ぐ、感震ブレーカーの設置もおすすめです。

2

ガス・電気・水道の代替



ライフラインの代替品を備えておくことで安心です。ガスはカセットコンロ、電灯は乾電池で作動するヘッドランプが両手も使えて便利です。水は日頃からペットボトルなどの水を多めに準備しましょう。近所の「給水拠点」を確認しておくことも大切です。

3

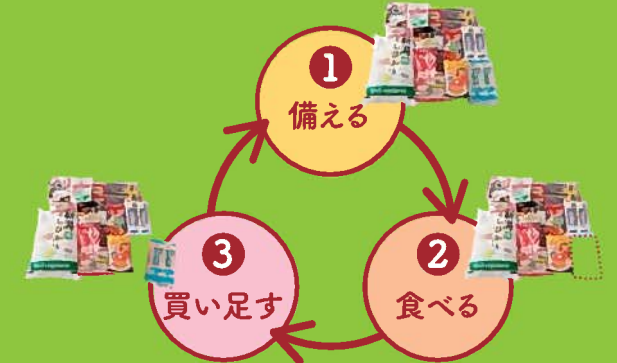
トイレの備え



下水が溢れ出すことがないか、自宅の排水設備が壊れていないかも確認しましょう。もし下水道が使えない場合には、備蓄している携帯用（非常用）トイレを使用しましょう。

4

食料品や日用品の備蓄 (ローリングストック法)



日頃から食料や日用品を多めに買い揃えておきましょう。ふだん生活する中で使う食材を非常食として活用するために定期的に食べ、食べた分だけ買い足していくことでなら、無理なく備蓄を続けることができます。